千葉県安房郡鋸南町　三浦　幸子

農業・林業

基本情報

【年　齢】
45歳
【出身地】
大分県大分市
【転出元】
東京都台東区
【前　職】
建築設計業
【活動時期】
R4.11～R7.10

協力隊に応募したきっかけ

長く住める場所を求め、ふるさとと同じ地形を探して鋸南町の中山間地の旧佐久間村にたどり着きました。滞在するほどに、生きた里山の暮らしに新鮮な驚きと魅力を感じ、少しでも後世まで存続してほしいと願うようになり、自身も農業を習得する中で自分の作る建築を組み直していきたいと思いました。３年の間は田畑に集中できること、この町で少しでも長い時間を過ごしたいという思い、自分の感じるこの地の魅力を一人でも多く伝える活動が募集要件に合致すると聞き、応募しました。

今後の抱負・任期後の目標

地元農家さんの野菜を給食に届ける、「１DAY地元の旬の野菜給食」が皆様のお陰で11月に実現されそうです。この先は１日かぎりでなく、地元食材が給食で当たり前に出る仕組みを地域の方たちと一緒に考えていきたいです。同月に企画した東京の販売会では、自然農の穀物・野菜で鋸南町の「土の力」を存分にアピールして来たいと思います。任期後は「半農・半工」生活での自立を目指します。田畑で勘を養い、農閑期には草や竹でものづくりしながら、土に還る建築を維持・考案していきたいです。

活動内容

●1. 自然農の実践

鋸南町の田んぼに通い始めてまず土の豊かさに驚きました。見たことのない種類の草や虫たちが溢れていました。肥料を入れなくて作物が育つ土地の優位性を実証したい、若者の就農の敷居が下がるのではと、機械なしの手作業「自然農」で２反の農地管理に挑戦しています。粘土質に適した稲・豆・芋・根菜類を中心に、まだ隙間が多いので、少しずつ畝を増やしています。

●2. 既存資源の活用実例づくり

自生する草や虫を恵みとできないか、有効活用を試しています。放棄地のススキを刈り、茅屋根の資源として使ってもらう。四季を通じて花咲く土地で飛び交う日本蜜蜂に蜂蜜を作ってもらう。魅力を再確認して地元の若者がまた戻ってくることを願っています。また自作の稲を使って地域に残る技、藁綯い・しめ縄づくりを習い、作物の販売パッケージに活用しています。

●3. 土地に愛着が芽生え、通い始める町外の人たち。外からの「地域を支えたい」思いを「力」に変えることが課題

過疎地で増加する個々の負担。農地や山道の管理を少ない人口でどう維持していくか。不断の手入れにより、豊かな自然を享受できることを実感した今、農業体験では何より心地よく過ごしてもらうことを優先しています。気に入ってくれたリピーターたちと農作業だけでなく、「周辺整備」も行うように心がけています。

連絡先

【メディア等の取材連絡先】
（メールアドレス（個人）march.studeo@gmail.com
（電話番号（個人） 090-9671-3095

【活動の様子を発信しているSNS・ブログなど】
（なし）